

東村山市自殺対策推進計画（案）に関する意見募集（パブリックコメント）の結果

1. 案件名	東村山市自殺対策推進計画（案）	
2. 担当所管	(1) 名称	東村山市健康福祉部健康増進課
	(2) 所在地	〒189-8501 東村山市本町 1-2-3 いきいきプラザ 1 階
	(3) 電話番号	042-393-5111（代表） 内線 3213
3. 概要	(1) 意見募集期間	令和元年 12 月 16 日（月）～令和 2 年 1 月 6 日（月）
	(2) 周知方法	東村山市ホームページ、市報ひがしむらやま令和元年 12 月 15 日号、資料設置場所でのポスター掲示
	(3) 資料等の設置場所	健康増進課、情報コーナー（本庁舎 1 階）、いきいきプラザ 1 階総合窓口、ワンズタワー内地域サービス窓口（ワンズタワー 2 階）、各公民館、富士見図書館、ふるさと歴史館、市民スポーツセンター、各ふれあいセンター、青葉地域センター、美住リサイクルショップ、社会福祉センター、子育て支援センターころころの森
4. ご意見をお寄せいただいた人数	計 1 名（内訳：各施設での提出 0 名、郵送での提出 0 名、ファクシミリでの提出 0 名、市ホームページでの提出 1 名）	
5. お寄せいただいたご意見の数	5 件	
6. お寄せいただいたご意見の内容と市の考え方	別紙のとおり（ご意見については、原文のまま記載）	

No.	ご意見	市の考え方
1	①現状分析に関する P7,8,9 のグラフが大変わかりづらく思えます。P.7 も P.8 も、国、都、市を 1 つのグラフにまとめないのはなぜでしょうか。また、%のスケールも違うので、グラフとして示して比較するという点でいかがかと思えます。P.9 の (6) グラフも小さいですし、何を示しているのか、極めてわかりづらいです。目で見ても把握しやすいようなグラフに差し替えていただけないでしょうか。	7～8 ページのグラフについては、市、東京都、全国をひとつのグラフにまとめました。 9 ページのグラフについては、棒グラフが「自殺者の割合」を示していること、青色の棒グラフが「東村山市の割合」を示していることを追記しました。グラフ全体については、基礎数値がなく、作り変えることができないため、このまま掲載とさせていただきます。
2	②これら (3) ～ (7) のグラフから何をどう読み取って、(8) につなげるのかが、読んだ誰もがわかるように文章による説明等を加えていただきたいと思います。	7～9 ページのグラフの前に、説明文を加えました。10 ページの (8) について、地域自殺実態プロフィールに基づく「推奨される重点パッケージ」の施策群を、重点施策として重点的にやっていく旨の説明文を加えました。
3	③居住地ベースの数値が使われているようですが、発見地ベースとの差異などはないのでしょうか。	「住居地」と「発見地」の数値に大きな差異はございませんが、当市は「住居地」の数値の方が「発見地」の数値の方を若干上回っている状況です。本計画は東村山市の計画であること、また、(3) から (8) の出典元の「地域実態プロフィール」が「住居地」の数値をもとに作成されていることをふまえて「居住地」を掲載している旨の説明文を 6 ページに追記しました。
4	④現状についての記述が 4 ページほどしかなく、なぜこの状況を踏まえたら「高齢者対策」「生活困窮者対策」「勤務・経営対策」が重点施策 (P.25) になるのかが判然としません。ちなみに港区の計画では 15 ページにわたって状況と分析が記載されています。当市の場合には総じて自殺死亡率が相当に高く、若年層も決して少なくないと見えますが、いかがなのでしょう。	7～9 ページのグラフの前に、現状についての説明文を加えました。10 ページの (8) について、地域自殺実態プロフィールに基づく「推奨される重点パッケージ」の施策群を、重点施策として重点的にやっていく旨の説明文を加えました。
5	⑤自殺対策というくくりで、初めて全庁的な対応が網羅的に記されたことは大事だと思います。これらを有機的に連携させていく機能はどこがどのように担って進めていくことになるのでしょうか。	4 ページの (3) 計画の基本理念に、自殺対策の推進を全庁的に取り組んでいくこと、推進本部、庁内連絡会、協議会にて自殺対策を有機的に連携していく旨の説明文を追記しました。